

授業概要

「複式簿記は資本主義を生みだした最大の発明のひとつだ」というのはドイツの著名な歴史学者の言葉である。この授業では、会計の歴史を踏まえながら、「なぜこのような会計処理（簿記）が行われるのか」という理由づけ（why?）の問題について講義する。簿記会計に関する基礎的な科目（会計学総論など）を履修した後に挑戦すると、「上級」というハードルには似つかわしくない“愉快で奥深い”会計のドラマに触れられることを目標にしている。簿記会計は貨幣数値を使った「ビジネスの言語」といわれる。外国語はもちろん母国語でも、「言語」の修得には反復的な日々の地道な努力が必要であるとの意識を持って受講していただきたい。

授業計画

第1回	道案内 一簿記会計はサムライ（士）の学問だ、簿記の楽しい学び方、テキスト紹介など
第2回	簿記会計は数学ではないが「数字でかたるビジネスの言語」だ
第3回	歴史に学ぶ簿記会計の「なぜ？」
第4回	複式簿記なくして会計学なし
第5回	複式簿記の本質は「複眼思考」にある
第6回	複式簿記と財務諸表の切っても切れない関係
第7回	バランスシート（貸借対照表）で読み解く経済問題
第8回	中間テストおよび解説／質疑応答
第9回	バランスシート（貸借対照表）から利益を計算する
第10回	資産の会計
第11回	負債の会計
第12回	純資産の会計
第13回	損益会計
第14回	まとめと総復習
第15回	総合問題
第16回	定期試験

到達目標

この講義の到達目標は、受講生が、①簿記会計に関する実務と学問の歴史について知ること、②経済社会において簿記会計が果たしている役割を理解すること、③複式簿記と財務諸表の関係を知ること、④実際の取引データを用いて決算手続を行い損益計算書と貸借対照表を作成できることである。

履修上の注意

会計学総論を履修してから受講すること。

予習復習

簿記は講義を聴くだけでなく、自ら記帳練習を行うことで、飛躍的に実力がつきます。予習・復習としてテキストや配布資料の練習問題を解くように平常から心がけましょう。

評価方法

- ・ 中間テスト（ミニテストを含む）40%、定期試験 60%で評価します。
- ・ 遅刻については、交通機関の遅延は認めます。
- ・ 授業中の私語など受講態度が著しく不良な者は成績評価で減点されることがあります。

テキスト

渡辺裕巨、片山寛、北村敬子編著『新検定 簿記講義 2級商業簿記』中央経済社、¥756
テキストに基づきながら、必要に応じて補助教材（プリント）を配布します。
（参考図書）
桜井久勝『会計学入門』（日経文庫）、日本経済新聞出版社、¥929